

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2016年5月1日 152号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



養殖作業を体験する青年奉仕隊員

パクーのふるさと

リアチョ（支流・分流）では、原流域の森林から運ばれてきた養分により、プランクトン、水草、小魚などが豊富に繁殖する。

パンタナール精神を象徴するパクー

パンタナール精神とは、善き者も悪しき者も、澄んだ物も濁った物も、すべて受け入れ、消化し、栄養とする、包容力と強靱さを備えた精神を言います。父母の心情、博愛精神、主人意識、不撓不屈、アガペー、千手千眼、等々のエッセンスすべてを含みます。究極的には創造神のような愛の精神（マタイによる福音書五章45節）で、人間社会では完全な実体を見ることが難しいのですが、自然界にはその象徴とも言える被造物が存在します。それが、パンタナールに生息するパクーという魚（学名：Piaractus mesopotamicus）です。

パクーの故郷は、上の写真のような、大河に接続する栄養豊かな湿原です。仔魚時代はプランクトンを食べ、幼魚や成魚になると、植物性、動物性を問わず採餌することができ、よく成長します。体長一メートルの長寿個体が捕獲された記録もあります。パクーは全身に強い筋力を持ち、前歯も奥歯もすべて頑丈な臼歯ですが、嚙みつきはありません。パクーは環境の変化に適応する生命力に優れています。選り好みせず何でもよく食べて成長し、しかも美味で栄養価の高いパクーには、チャンチョ・デ・リオ（川の豚）という異名もあります。

水産資源としてのパクー放流と学術調査へ

レダ基地では、国立アスンシオン大学水産学科のマグノ教授をはじめとする専門家たちの協力を得て、二〇一二年十二月にパクーの人工孵化に初めて成功しました。それ以来、稚魚の育成と放流を進め、食用魚としての養殖技術を研究し続けています。それまで不可能であった、パクーの故郷においてこれらが実現したことの意味は大きく、自然繁殖に極めて近い条件下でのパクーの科学的な生態調査が可能になりました。水産資源の回復と地場産業の育成を目指し、諸機関、諸自治体と協力しながら、マーカー付き放流魚の移動・分布や成長状況が調査されます。今年五月八日の放流式は、新たなステージへの出発式となります。

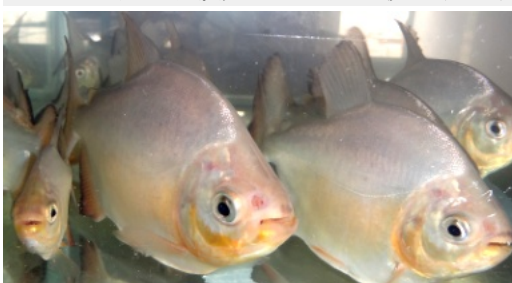
五月八日、パクー稚魚放流式典のために

放流に寄せられる期待と関心 レダ基地では、国立アスンシオン大学の協力を得て、パラグアイ川の水産資源の回復とチャコ地方の地場産業の振興、環境保全を目的に、三年前からパクーの稚魚を育て、パラグアイ川に放流してまいりました。放流の適期は、稚魚の成長の度合いを見て決められます。本年は、来る五月八日の放流式典を中心に、約10万匹の稚魚を放流する予定で、政府、地元民、関係自治体などが、大きな期待と関心を寄せています。

産業振興と環境保全の両立 パラグアイでは、大豆栽培（主に国土の南東部）と牧畜（主に北西部）が主産業ですが、いずれも始めに森林を大規模に伐採しなくてはならず、自然環境が少なからず損なわれてきました。森林と水域の生態系が密接な関係にあることは、よく知られています。国にとって、環境保全と水産資源の回復の両立は、頭の痛い問題なのです。加えて、先住民の生活の質も向上しなくてはなりません。この国にとって、私たちが超過疎地であるチャコ地域において、パクーの完全養殖に成功したことの意義は、予想以上に大きいものでした。



フランコ前大統領夫妻とマグノ教授(レダ)



成魚とほぼ同じ姿にまで成長した稚魚

レダ基地セミナーハウスで21日修練会

去る三月十四日から四月一日まで、レダ基地のセミナーハウスにおいて、アスンシオンの教会による21日間の修練会が開催され、17名の青年男女が参加しました。レダのセミナーハウスではこれまでVIPや青少年を対象とする幾多の研修行事が開催されてきましたが、このような長期の修練会が開催されたのは、初めてのことです。プログラムには、二日間の先住民村への奉仕(エスペランサの大教室と



ミリタリー機でレダに到着。



開講式の中田所長(右)と佐野氏。

化に挑戦、成功した時のように、また日本の「はやぶさ」と「あかつき」の奇跡を起こしたチームのように、今後も地道で粘り強い努力が必要とされます。皆様のご理解とご支援とをぜひお願いいたします。

支援金専用口座 ゆうちよ銀行
記号 10280 番号 61349751
名義人 一社) 南北米福地開発協会



エスペランサで歓迎を受ける。



子供たちとの交流にも全力投球。



先住民村に来た非先住民の青年。



講義中の風景(レダ・セミナーハウス)

廊下の塗装、子供たちとの交流等」と、三日間のレダプロジェクトを学ぶ特別講座(佐野氏の講義、中田所長の講話と証、開墾体験、養殖作業体験、釣りと乗馬体験、タロイモ収穫等)が組み込まれました。参加者たちは、すべての時間に全力投球し、感動を受け、人に感動を与え、修了式と事後の報告会では、涙ながらに感想を述べたとのこと。 (佐野氏より)



フェリックス講師。



進行係ほか全般に大奮闘。



台所担当者の活躍も大切。



閉講式(レダ・セミナーハウス)

第十回パンタナール一日研修会

どんな人々、環境をも父母の心
情で包み込むパンタナール精神！

★レダプロジェクトにおける理想郷建設(柴沼)
★本物の森造りと地球環境問題救済の道(高津)

四月二日(土) 東京渋谷区代々木の国立オリンピック記念青少年総合センター、国際交流棟において、当法人とNPO地球の緑を守る会の共催により、第十回パンタナール一日研修会が開催されました。

昨年以上に桜の開花も美しい会場に、64名の参加者、講師陣、スタッフが集いました。皆さん、終始にこやかだったのが印象的です。今回はプログラムを再構成し、時間にゆとりを持たせました。柴沼講師はパンタナール精神の解説に新たな視点と内容を盛り込み、多くの動画・写真も駆使して、提唱者の理想が現実感も豊かに、分かり易く解説されました。

また高津講師は、屋外講義で参加者たちと共にタブノキとモチノキを囲み、本物の森造りを奨励しました。屋内講義では、リオの伝説のスピーチ(92年当時12歳の少女セヴァン・スズキ)ほか、地球温暖化問題に対する世界的に高く評価されている見識なども紹介しました。



国際交流棟の桜並木の下で、にこやかに記念撮影

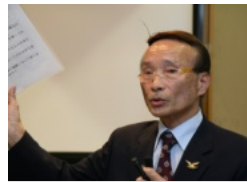
また、レダで植樹園の管理を中心に業務全般を担当している伊達氏は、自分自身の生の体験を参加者に伝え、共感を呼びました。恒例の最終セッション、各講師を囲んだ懇親会では、各参加者が希望する小グループで講師と親しく交流し、質問等を行いました。

研修会参加者の感想文より(抜粋)

●レダ開発の意義、内容をよく理解させていただきました。地球環境問題について真剣に、情熱をもって取り組んでおられる先生方を通して、私もそのように真剣に考えて少しでも貢献したいです。(58歳女性) ●パンタナール、レダという名前はよく聞いてはいても、実際どういう土地か全然知らずにいましたが参加してよくわかりました。文先生の精神を引き継ぎ、実践されてきたパンタナールスピリットを私も相続していけたらと思います。(27歳男性) ●自然保護に関して文先生の教えがあることを知り、



柴沼講師



高津講師



伊達氏

レダを体験した青年は、今！(第6回)

世界の教育環境改善のために働きたい！



染谷情佳(もとか)さん

第14回国際協力青年奉仕隊員 東洋大学応用化学科卒業 JICA青年海外協力隊 選考合格

Q. なぜ青年奉仕隊に参加しようと思いましたか？

A. 大学では、一般的な授業に加え、実験や教職の単位も取り、またアルバイトもしていました。学期中忙しく過ごした分、長期休暇の時には海外ボランティアに参加し、新鮮な体験をすることにしていました。インターネットでボランティアの募集を探し、フィリピンで道路を作ったり、タイで農業のボランティアをした

ことがあります。母からパラグアイの青年奉仕隊のことを聞き、参加しようと思いました。

Q. パラグアイでの青年奉仕隊活動が、他の海外ボランティア活動と比べて、より印象的だったのは、どんな点ですか？

A. 一番印象的だったのは、レダを開拓してきた先生たちの精神世界です。青年奉仕隊に参加した期間、レダの先生方や奉仕隊のメンバーたちと話し合う時間がたくさんありました。さまざまな話を聞き、共に過ごす中で、今まで遠く感じていた崇高な精神世界が少し身近に感じられるようになりました。

Q. 具体的なプログラムでの違いは感じましたか？

A. プログラムにいろんな都市の名前が載っていたのですが、本当にびっくりするほど飛び回ったので衝撃的でした。長時間バスで移動しながら、ある時は物凄い砂嵐に遭遇し、バスの中まで砂ぼこりが入ってきて大変でした。マスクやタオルを顔に当てて必死に防ぐという忘れられない体験もしました。

Q. 今後の進路について聞かせてください。

A. 今年の終わり頃から2年間、JICAの青年ボランティアで理科教諭としてモザンビークに行ってくる予定です。今まで参加した海外ボランティアが短期だったので、もっと長い期間やってみたいという気持ちがありました。大学卒業後の進路について、就職や大学院なども考え悩みましたが、やっぱり海外ボランティアがやりたいと思いました。まずは2年間の任務を完了し、その後も世界の教育環境改善のために働きたいと思います。



タブノキやモチノキの下で野外講義

本間にうれしく思います。レダの地で四苦八苦しなから現在と未来を作り上げていこうと感じました。(32歳女性) ●レダで取り組まれた先生方の姿を見て理解できました。苦勞してできた実がどれ程素晴らしいか、人の心をとらえるかと感じます。思いはたくさんありますが言葉になりません。感動しています。(61歳女性) ●シイ、カシ、タブノキについても学びました。タブノキの力強さを感じました。防災という点からも、植生について考えさせられました。(50歳男性) ●これからの進路選択をするにあたって、パンタナールのことを考えながら将来についてまとめたいと思います。(17歳女性)

第十五回環境問題研究会

地球規模の災害防止の特効薬Ⅱ放射能汚染された山林・田畑の画期的な浄化法を提示！



語る皆川雅朋先生

三月十九日（土）午後二時より、川崎市の高津スポーツセンターセミナー室において、第十五回環境問題研究会を開催しました。講師は、山形大学を定年退職後、夢創工房研究員として活躍する皆川雅朋工学博士。テーマは、「地球規模の災害防止の特効薬Ⅱカッセルチップ工法」で、23名が参加しました。

皆川先生とその研究グループは、天然・人工ゼオライト等の吸着特性を持つ物質を追究し、その成果としてカッセルチップ工法が開発されました。

今回の講義では、同工法の様々な効果と活用方法を、データ図表やチャート図等を用いて、知ることができました。また、皆川先生の指導により、学生たちの研究においても、土壌の浄化や悪臭の除去などに、

成果を上げることができたことなども聞くことができました。



皆川雅朋先生（前列中央）と環境問題研究会参加者たち。

また、極めて興味深かったのは、セシウム等の放射性物質の吸着・回収にも、カッセルチップが効果のあることが実験で示されたということ。短い時間の中ではすべてを聴くことはできませんでしたが、うれしい集会成为りました。次回、六月四

日（土）の開催予定です。（戸石記）

講義メモ ●今の時代の特徴Ⅱ単一因子の解決だけでは問題が解決されることはない。多くの因子が複雑に絡まっていて、根本原理に遡って解決することが許容されず、有効な結果が得られにくい。●日本の社会の課題Ⅱ問題について反省はするが、その反省を教訓として後世に活かす仕組みが不十分であること。●新しい研究の成果が日本で正しく認められない場合、海外で発表するという道がある。（小田記）

第十六回青年奉仕隊員募集！！

本年も国際協力青年奉仕隊を派遣します。あなたの若い日に、地球の反対側に飛び、汗を流して異文化の人々と心を通わせる奉仕活動！

原初の姿の大自然に触れ、自分自身を脱皮して、未知の可能性に挑戦してみませんか！

期間 八月二十四日～九月十一日（予定）

プログラム レダ近隣地域での奉仕活動、レダでの活動体験（開拓・植樹・栽培・牧畜・養殖・釣り・乗馬など）、首都アスンシオン、メノナイトの築いた都市ロマ・プラタ、先住民の村、イグアスの滝などの見学・観光など（予定）

参加費 十五万円（参加者の負担額）

主催 一般社団法人南北米福地開発協会

応募締め切り 一次選抜 四月三十日、二次選抜 五月三十一日 応募は健康な方に限ります。

連絡先 office@asd-nsa.com（担当 島田賢二）



新しい妹です（バイア・ネグラ）



大人気、自撮り（エスペランサ）

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区
溝口3-11-15
岩崎ビル4F

電話：044-829-2821

FAX：044-829-2820

ゆうちょ銀行（旧一般会員会費納入）

記号10280 番号61349751
一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール：office@asd-nsa.com

ホームページ：http://asd-nsa.com

会員種別

◆会員一口1000円／月

◆特別会員一口1万円／月

◆法人会員一口1万円／月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行

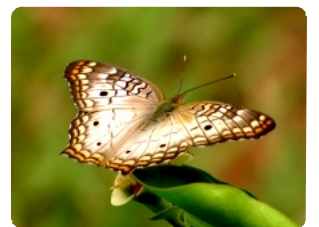
00290-5-113072

加入者名：シャ 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申し付けください。ホームページからも入手できます。

お便り募集



読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局 office@asd-nsa.com へお願いします。